



## 平成 24 年 2 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 23 年 7 月 14 日

上場会社名 株式会社ランド 上場取引所 東  
 コード番号 8918 URL <http://www.land.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松谷 昌樹  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 佐瀬 雅昭 (TEL) 045(345)7778  
 四半期報告書提出予定日 平成 23 年 7 月 15 日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 24 年 2 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 5 月 31 日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24 年 2 月期第 1 四半期	2,225	△24.0	93	△70.0	36	△58.2	167	123.6
23 年 2 月期第 1 四半期	2,930	△58.6	312	—	88	—	75	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24 年 2 月期第 1 四半期	0.98	—
23 年 2 月期第 1 四半期	1.23	1.23

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24 年 2 月期第 1 四半期	18,277	345	1.1	1.17
23 年 2 月期	18,628	173	0.2	0.19

(参考)自己資本 24 年 2 月期第 1 四半期 200 百万円 23 年 2 月期 32 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23 年 2 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24 年 2 月期	—	—	—	—	—
24 年 2 月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

### 3. 平成 24 年 2 月期の連結業績予想 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通 期	7,300	△2.3	400	—	160	—	150	—	0.88

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 無

(注)「1 株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる普通株式数については、平成 23 年 5 月末における発行済株式総数(自己株式を除く)を使用してあります。

#### 4. その他

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年2月期1Q	171,095,900株	23年2月期	171,095,900株
24年2月期1Q	247,997株	23年2月期	247,997株
24年2月期1Q	170,847,903株	23年2月期1Q	60,848,203株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。なお、不動産業界におきましては、急速な事業環境の変化が続いております。このような環境下において当社は、金融機関との交渉状況や不動産市況の動向により、案件の引渡時期のずれ等が生じる可能性があり、個別案件の損益の額及び計上時期が大きく変動する可能性があります。上記のような不確定要素が多いため、第2四半期連結累計期間での業績の予想が難しい状況であります。なお、四半期ごとの実績については、これまで通り適時に開示してまいります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国の成長や北米の景気回復等を背景に、景気の持ち直しの兆しが見られつつありました。しかしながら、東日本大震災の発生は、事業活動に大きな影響を与え、企業業績の下押し圧力が強くなるとともに、電力供給の制約や原子力発電所事故の影響等、先行きが不透明な状況で推移してまいりました。

当社グループが属する不動産業界におきましては、東日本大震災の発生に伴い、住宅に対する消費マインドの低下等が懸念されましたが、充実する住宅政策や低位安定する住宅ローン金利に下支えされ、全体としては大きな変化は見られず、堅調に推移してまいりました。

このような環境下において、当社グループは「豊かで快適な暮らしの創造」を企業理念とし、早期の業績の回復に向けて、最大限の努力を継続してまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は2,225百万円、営業利益93百万円、経常利益36百万円、四半期純利益167百万円となりました。

なお、各セグメントの業績は、次のとおりであります。

前連結会計年度まで事業の種類別セグメントを「不動産販売事業」「不動産関連業務受託事業」「シニア住宅事業」としておりましたが、当社グループの取り巻く環境を鑑み、経営管理の効率化及び事業の集約を実施致し、当第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を「レジデンシャル事業」「アセット・ソリューション事業」「シニア事業」としております。

#### (レジデンシャル事業)

レジデンシャル事業におきましては、自社分譲マンションである「ランドシティ新井薬師」30戸の引渡しの他、販売代理案件の引渡しによる売上ならびに住宅用不動産の企画手数料等の売上を計上した結果、売上高は1,151百万円、営業利益は56百万円となりました。

#### (アセット・ソリューション事業)

アセット・ソリューション事業におきましては、収益不動産の賃料収入及びその他の収入を合わせ、売上高は75百万円、営業損失は63百万円となりました。

#### (シニア事業)

シニア事業におきましては、開設済み施設の稼働率も順調に推移し、売上高は998百万円、営業利益は97百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ351百万円減少し、18,277百万円となりました。これは主に保有在庫の引渡しによるたな卸資産の減少及びそれに伴うプロジェクト資金の返済ならびに販売費及び一般管理費・税金費用等を支出したことによるものであります。

また、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ524百万円減少し、17,931百万円となりました。これは主に保有物件の売却に伴う有利子負債が減少したことによるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における純資産は、345百万円となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期連結会計期間末に比べ309百万円減少し、420百万円となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、201百万円となりました。これは主に、債務免除益の計上及び販売費及び一般管理費ならびに税金費用等を支出したことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は59百万円となりました。これは主に有形固定資産（賃貸不動産にかかる建設費）の延払い分の支払いによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は48百万円となりました。これは主にプロジェクト資金の返済による支出によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年2月期通期の連結業績予想に関しましては、平成23年4月14日に公表した連結業績予想に変更はございません。なお、不動産業界におきましては、急速な事業環境の変化が続いているため、金融機関との交渉状況や不動産市況の動向により、案件の引渡時期のずれ等が生じる可能性があります。

そのため、個別案件の損益の額及び計上時期が大きく変動する可能性があり、不確定要素が多いため、第2四半期連結累計期間での業績の予想が難しい状況であることから、通期の連結業績予想のみ開示しております。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

##### ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### ② 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

##### ③ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

##### ④ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算出にあたっては、加味する加減算項目や税額控除項目を、重要なものに限定しております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境や一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度において、大幅な債務圧縮を目的とした棚卸資産や保有固定資産の処分による貸借対照表の量的改善、有利子負債の削減による支払利息等の軽減、増資による資本増強等により、将来の業績回復に向けた土台の整備を図ってまいりましたが、不動産業界を取り巻く環境は厳しく、継続して大幅な損失を計上したことにより、自己資本比率が減少している状態となっております。

当第1四半期連結会計期間においては、損益面で36百万円の経常利益及び167百万円の四半期純利益を計上したものの、自己資本比率を大幅に改善するには至らず、依然として、自己資本比率が減少した状態となっているため、当社グループには、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループといたしましては、当該事象を解消すべく、グループ一丸となって、業績の回復に努めてまいります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	420,697	730,633
受取手形及び売掛金	465,811	441,863
販売用不動産	20,291	20,291
仕掛販売用不動産	2,229,354	2,278,466
その他	423,448	400,500
貸倒引当金	△2,538	△2,658
流動資産合計	3,557,065	3,869,096
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,668,696	3,667,758
減価償却累計額	△578,073	△534,245
建物及び構築物(純額)	3,090,623	3,133,513
土地	9,087,099	9,092,068
その他	1,081,761	1,062,370
減価償却累計額	△329,733	△307,003
その他(純額)	752,027	755,366
有形固定資産合計	12,929,751	12,980,948
無形固定資産	8,157	18,232
投資その他の資産		
投資有価証券	38,510	38,516
差入保証金	1,046,572	1,019,627
その他	700,830	705,675
貸倒引当金	△3,051	△3,126
投資その他の資産合計	1,782,862	1,760,694
固定資産合計	14,720,770	14,759,874
資産合計	18,277,836	18,628,970
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,527	32,214
短期借入金	3,524,450	3,499,450
1年内返済予定の長期借入金	6,506,544	5,521,077
未払金	1,689,599	1,740,691
未払法人税等	128,039	188,607
引当金	126,303	90,864
その他	3,457,943	3,587,730
流動負債合計	15,454,408	14,660,635

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日)
固定負債		
長期借入金	—	1,184,750
長期入居一時金預り金	1,171,369	1,263,912
その他	1,306,072	1,346,639
固定負債合計	2,477,442	3,795,302
負債合計	17,931,850	18,455,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,670,794	5,670,794
資本剰余金	5,435,514	5,435,514
利益剰余金	△10,465,615	△10,633,413
自己株式	△440,204	△440,204
株主資本合計	200,489	32,691
新株予約権	145,495	140,341
純資産合計	345,985	173,032
負債純資産合計	18,277,836	18,628,970



(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)
売上高	2,930,514	2,225,853
売上原価	2,104,940	1,768,669
売上総利益	825,574	457,184
販売費及び一般管理費	513,404	363,425
営業利益	312,169	93,758
営業外収益		
受取利息	4,187	4,137
受取手数料	—	12,259
賃貸収入	9,216	4,823
償却債権取立益	—	16,881
その他	8,656	9,734
営業外収益合計	22,060	47,836
営業外費用		
支払利息	238,704	103,625
その他	7,222	1,097
営業外費用合計	245,926	104,722
経常利益	88,303	36,872
特別利益		
債務免除益	—	130,128
その他	—	2,921
特別利益合計	—	133,049
特別損失		
投資有価証券売却損	2,776	—
固定資産売却損	6,193	—
事務所移転損失引当金繰入額	2,412	—
特別損失合計	11,382	—
税金等調整前四半期純利益	76,921	169,921
法人税、住民税及び事業税	1,882	2,123
法人税等合計	1,882	2,123
少数株主損益調整前四半期純利益	—	167,798
四半期純利益	75,039	167,798

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	76,921	169,921
減価償却費	118,470	68,234
のれん償却額	26,724	8,908
債務免除益	—	△130,128
賞与引当金の増減額 (△は減少)	53,224	40,141
前渡金の増減額 (△は増加)	△180,000	△6,516
支払利息	238,704	103,625
未払金の増減額 (△は減少)	△39,404	△4,973
売上債権の増減額 (△は増加)	△93,888	△23,948
未収消費税等の増減額 (△は増加)	2,866	—
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,296,504	49,115
仕入債務の増減額 (△は減少)	△540,345	△10,686
差入保証金の増減額 (△は増加)	232,148	△27,056
入居一時金預り金の増減額 (△は減少)	△112,447	△157,556
前受金の増減額 (△は減少)	△342,753	△11,498
未払消費税等の増減額 (△は減少)	—	△115,910
その他	78,837	△64,963
小計	1,815,561	△113,291
利息及び配当金の受取額	4,519	4,377
利息の支払額	△67,347	△37,515
法人税等の支払額	△32,355	△55,251
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,720,378	△201,681
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
差入保証金の回収による収入	1,839	112
有形固定資産の取得による支出	△108,419	△66,937
その他	992	7,246
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105,587	△59,579
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△209,851	25,000
長期借入金の返済による支出	△1,695,810	△70,342
その他	△2,020	△3,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,907,682	△48,674
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△292,891	△309,935
現金及び現金同等物の期首残高	1,130,044	730,633
現金及び現金同等物の四半期末残高	837,152	420,697

#### (4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度において、大幅な債務圧縮を目的とした棚卸資産や保有固定資産の処分による貸借対照表の量的改善、有利子負債の削減による支払利息等の軽減、増資による資本増強等により、将来の業績回復に向けた土台の整備を図ってまいりましたが、不動産業界を取り巻く環境は厳しく、継続して大幅な損失を計上したことにより、自己資本比率が減少している状態となっております。

当第1四半期連結会計期間においては、損益面で36百万円の経常利益及び167百万円の四半期純利益を計上したものの、自己資本比率を大幅に改善するには至らず、依然として、自己資本比率が減少した状態となっているため、当社グループには、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、下記施策の確実な実行により、早期に大幅な改善が実現できると考えております。

##### ① 共同事業方式によるマンション分譲業務の展開

マンション分譲業務に関しましては、当社が土地を取得し、建築費を事業パートナーに負担していただく等、当社の資金流出を極力抑えた省資金型の共同事業方式により開発を進めてまいり所存であり、得意とする東京・神奈川エリアに特化して、優良な物件のみを厳選し、供給戸数や売上高を追い求めるのではなく、強みである仕入情報ネットワークを駆使し、得意とする企画力により、エリアニーズに適合した「売れるマンション(=良いもの)」のみをマーケット環境に応じた展開をしてまいります。

##### ② 堅調なシニア事業の積極展開

現状、シニア事業は非常に好調であり、また、療養病床が大幅に削減される見込みであることから、要介護者に対応できる受け皿の必要性が高まるものと認識しており、特に医療体制の充実した高齢者住宅ニーズは高まると想定しております。

そのような環境の中、当社グループの強みとノウハウを活かし、ハード・ソフトの両面で同業他社との差別化を図ることで、同事業を当社グループの事業の柱の一つとして引き続き積極的に展開してまいります。

##### ③ フィービジネスの展開

当社グループは、今後の重要な資金源として、入手した案件情報を活用し、これまで培ってきたノウハウにより、仲介手数料やコンサルティングフィーを獲得する事業や、取得した土地にマンション事業を企画し、資金力のある大手デベロッパー等に事業主の地位を譲渡することによりフィーを獲得する地位譲渡業務等の省資金型のフィービジネスを展開してまいります。

##### ④ 債務の圧縮

既存のプロジェクト資金等につきましては、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関および建設会社にご協力をいただいております。見直し後の返済条件に従い支払いを行っております。また、債務の圧縮につきましては、担保物件の処分も含め、債権者である金融機関等と個別に協議しながら進めてまいります。

##### ⑤ 株主価値を棄損しない資金調達の実施

当社グループは、シニア事業という安定したコア成長ビジネスを持ち、物件の仕入れ力と販売力には定評があるものと自負しており、必要に応じた資金を調達することができれば、成長路線に戻せると認識しております。今後は、引き続き様々な調達手法を検討し、株主価値を最大限に高める最適な手法により適宜必要な資金を調達してまいり所存であります。

また、上記施策に加え、既に実施しております人員配置の適正化や販売費及び一般管理費をはじめとした固定費の削減を引き続き徹底することにより、支出の抑制に努めてまいります。

しかしながら、不動産市場のさらなる悪化等によりたな卸資産の売却や新規事業が計画のとおりに進まない可能性や金融機関との返済条件の見直し交渉や資金調達につきましても関係者との協議を行いながら進めている途上であること、また、資金調達面においては株式市場並びに当社株価等の状況に影響されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提に作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成22年3月1日至平成22年5月31日）

(単位：千円)

	不動産販売事業	不動産関連業務 受託事業	シニア住宅事業	計	消去又は全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,344,675	629,917	955,921	2,930,514		2,930,514
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	2,835	—	2,835	(2,835)	—
計	1,344,675	632,752	955,921	2,933,350	(2,835)	2,930,514
営業利益	49,060	169,935	71,038	290,034	22,135	312,169

(注) 1 事業区分は売上集計区分によっております。

2 各事業の主な内容

① 不動産販売事業・・・自社分譲マンションの分譲及び不動産流動化事業

② 不動産関連業務受託事業・・・他社分譲マンションの販売代理を含む不動産の媒介及び広告宣伝代理業務、ローン事務代行業務、並びに不動産の賃貸に関する事業

③ シニア住宅事業・・・シニア用住宅の企画・運營業務等

3 すべての営業費用は各セグメントに配分されているため、配賦不能営業費用はありません。

【所在地別セグメント情報】

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

海外売上高がないため該当事項はありません。

## 【セグメント情報】

### 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行っているものであります。

当社グループは、従来、事業の種類別セグメントを「不動産販売事業」「不動産関連業務受託事業」「シニア住宅事業」としておりましたが、昨今の当社グループを取り巻く環境を鑑み、経営管理の効率化及び事業の集約を実施致し、新たに事業活動を展開しております。

それに伴い、当社グループは「レジデンシャル事業」「アセット・ソリューション事業」「シニア事業」を報告セグメントとしております。

なお、各セグメントにおける事業内容は以下の通りであります。

セグメント区分	事業の内容
レジデンシャル事業	住宅用不動産の企画・開発・販売、その他付随業務
アセット・ソリューション事業	収益不動産の企画・開発・販売・運営、アセットマネジメント・プロパティマネジメント業務、その他付随業務
シニア事業	有料老人ホームの企画・開発・運営、その他付随業務

### 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	レジデンシャル 事業	アセット・ソ リューション 事業	シニア事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,151,909	75,079	998,864	2,225,853	—	2,225,853
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	798	—	798	(798)	—
計	1,151,909	75,877	998,864	2,226,651	(798)	2,225,853
セグメント利益 又は損失(△)	56,761	△63,668	97,073	90,165	3,593	93,758

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額3,593千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

### 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

#### (追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

### (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。